

## whether節をとる動詞について

五百蔵 高浩

## 1 はじめに

what, which, howといった疑問詞は、[+wh]という素性を持ち、間接疑問を導くwonderやaskといった動詞の目的語として現れるという具合に説明されることが多い。whetherもまた、[+wh]素性を持つ補文化詞であり、上記の疑問詞と同じように疑問節を導く役割を果たしていると一般的に考えられている。<sup>1</sup>しかし、次の(1)の例が示すように、上記のような疑問節を導くタイプの動詞以外で、thinkのように、通常はthat節のみをとる動詞がwhether節を従えている例が観察される。<sup>2</sup>

(1) He says: "I work really hard, I work so hard, I haven't really thought whether I like all this."

また、(2a, b)で使用されているknowのように、that節、whether節のいずれをとることも可能である動詞もまた存在する。<sup>3</sup>

(2) a. Did you know that the minister has agreed?

b. Did you know whether the minister has agreed? (Leech and Svartvik 1994: § 279)

さらに、目的語として取るのは通常の名詞句のみであり、that節も間接疑問も許さない動詞がwhether節に限って節を従えている場合が実際に見つかる。<sup>4</sup>次の(3)はincludeがwhether節を補部としてとっている例である。

(3) Matters to be discussed include whether there is a need for more leisure facilities and whether a ban on late-night carry-outs from Castlebay's three hotels and one bar should be introduced.

このように、名詞としての働きをするwhether節はどうもそれ独特の特徴を兼ね備えているようであり興味深い。そこで、この小論では、他のwh疑問節とは異なった振る舞いを見せるwhether節と、それを補部として許す動詞との関係をいくつかの点から検討してみたい。

## 2 先行研究

whether節の取り扱いについては、選択疑問を導くifとの比較という観点から説明されたり、一連のwh疑問詞と同じく、間接疑問を導く述語との関係で記述されていることが多い。しかし、whether節のみに絞った十分な記述はどうも見当たらないようである。本節では、関連する先行研究をいくつか概観し次節への橋渡しとする。

## 2.1 Declerk (1991), Quirk et al. (1985)

Declerk (1991: 527) は、「疑問文は、通常、ask, inquire, wonder, want to knowといった「問い合わせの動詞 (verbs of inquiry)」に依存した従属節や疑問を表す語またはif/whetherにより導入される」とのみ述べているだけであり、それ以上に詳しく論じてはいない。Quirk et al. (1985: 1184) は間接疑問をとる動詞のリストを挙げ、各々の動詞に関して観察される特徴を示している。表(4)の○印のある

欄は、当該の特徴が見られることを示している。

(4)

	補部が非断定的文脈で 用いられやすい	否定形でもちいられる (ことが多い)	前置詞が後続する 場合がある	wh ＋不定詞節を 伴うこともある
anticipate	○			
argue	○		○	
arrange				○
ascertain				○
ask			○	○
beware			○	
calculate	○			○
care	○	○	○	
check			○	○
choose				○
confirm	○			
consider	○			○
decide			○	○
demonstrate				○
depend			○	
disclose				
discover				○
discuss				○
doubt				
enquire			○	○
establish				○
explain				○
express				
fathom	○			
find out			○	○
forget				○
guess				

	補部が非断定的文脈で 用いられやすい	否定形でもちいられる (ことが多い)	前置詞が後続する 場合がある	wh ＋不定詞節を 伴うこともある
hear	○		○	
imagine	○			○
indicate	○			○
inquire			○	○
judge				○
know	○			○
learn	○			○
make out	○			
mind	○	○		
note	○			○
notice	○			○
observe	○			○
perceive	○			○
point out	○			
ponder				
predict	○			
prove				
realize	○			
record	○			
reflect			○	
remember	○			○
say	○			○
show				○
tell	○	○		○
think	○			○
wonder				○



## 2.2 稲田 (1983)、山本 (1982)

稲田 (1983: 114) は、「補部に疑問節をとる述語は [途中略] 質問や疑問と密接な関係をもっているものも多いが、「疑問」と直接関連づけるのが難しいものもある」とし、知識の獲得・消失、推測・判断、情報の伝達、情報の不確定性・関連性といった事柄に関わる述語類が疑問節を補部としてとることができる、と述べている。

### (5) 補部として間接疑問をとる述語

- (i) 質問や疑問に関する述語
- (ii) 知識の有無、獲得、消失に関する述語
- (iii) 推測、判断決定に関する述語
- (iv) 情報の不確定性に関する述語
- (v) 情報の関連性、依存性に関する述語

他方、間接疑問を補部に許さない述語の特徴は山本 (1982: 20-28) により次のようにまとめられている。

### (6) 補部として間接疑問を許さない述語

- (i) 補文の事柄の生起やその真偽性・蓋然性を述べている述語
- (ii) 補文の事柄が真であると仮定する述語
- (iii) 補文の事柄が真であると主張する述語、あるいは補文の事柄が真であると明確に (正式に、公に) 述べる述語
- (iv) 補文の事柄が真であるという判断ないしは確信を述べる述語
- (v) 補文が真であることを認める述語
- (vi) 補文の事柄が事実になる (真になる) ことへの希望、期待、要求、意図、働きかけ、などを表す述語
- (vii) 補文の事柄が真であるという前提または仮定をもつ述語

以下の引用は稲田 (1983:120) からのものであるが、間接疑問のうち特に *whether* 節と述語との共起関係について梶田 (1976) の見解を交えて触れており興味深い。

補文中に間接疑問の *whether* 節を許すかどうかに関する規定は、単一の述語の中に「局地化」することのできない「文脈特性」であることを、梶田(1976)は下記のような事実によって指摘している。

- i. a \*Bill testified whether John took a bribe.  
b. \*Bill has said whether John took a bribe.
- ii. a. {It would be necessary/It's impossible} to testify whether he took a bribe.  
b. {It would be difficult/It's too early} to say whether he took a bribe.
- iii. a He has not yet said {whether/if} he could do it.  
b. Did she say where she put it?  
c. Where did she say she put it? (Curme 1931: 182, 245)

すなわち、i が示すように say, testify, ascertain, establish, find out など単独では whether 節をとりにくい。しかし ii のように否定や法助動詞などの‘支え’によって述部の表す内容が「未だ実現されていない (unrealized)」ことを示す時には、whether 節と共起可能である。これらの事実は、語彙項目ごとに個別に記載する選択制限を使って記述することはできない。したがって、これは疑問節の選択を決定する要因に関して根本的な問いを投げかけているともいえる。ここではこれらの述語類は believe, claim, など原理的に疑問節と共起できない述語と区別して[<sub>WH</sub> +WH]という選択制限を (wonder, ask などと同様に) 付与されているものとする。しかしこれらの述語ではさらに「非現実」という意味素性が他から与えられる (つまり動詞句全体の素性になる) 場合にのみ、この選択制限は‘発動’されたと考えておくことにする。

(下線は筆者により追加)

本稿の冒頭で示したように、事実はさらに複雑である。[<sub>WH</sub> +WH]という選択制限が与えられており原理的に疑問節をとることのできる動詞、[<sub>WH</sub> -WH]が付与されており、疑問節はとらず that 節は許す動詞、[<sub>NP</sub> ]の指定が与えられており、疑問節、that 節のいずれもとらず名詞句のみを許す動詞までが whether 節を従えてしまう可能性が存在するからである。そこで、次節ではこういった動詞がどのような環境で whether 節を従えて現れているのか検討していくことにする。

### 3 コーパスに基づく検証

#### 3.1 使用コーパス

検索に使用したコーパスは The Times and The Sunday Times, Compact Disc Edition, News Multimedia Ltd.の1993年度版の記事の一部、および1994年度版の記事全部、語数にして約5400万語のテキストファイルからなるコーパスを利用した。テキストデータ処理に関しては Corpus Wizard for Win32, ver. 1.09e (浜口崇氏作)を用い、正規表現機能を利用して該当するデータの抽出を行った。<sup>5</sup>

#### 3.2 検索結果とその検討

(7) に示したのは、コーパス検索により用例の見つかった、whether 節を直接目的語として従えている動詞の一覧である。参考として、稲田 (1983) において直接目的語として疑問節をとることができると判断されている語には\*印を付しておく。<sup>6</sup>

##### (7) whether 節を補部として従えている動詞

advise	calculate*	debate*	dictate*
agree	care	decide*	disagree
analyse	check*	deduce*	discern*
announce*	choose	define	disclose*
argue	clarify	deny	discover*
ascertain*	confirm*	depend	discuss*
ask*	consider*	detect*	disguise
assess	contest	determine*	dispute



distinguish*	forget*	prove*	say*
divulge*	gauge	query*	see*
doubt*	guess	question*	show*
enquire*	hear*	realise*	smell
establish*	identify	reassess	specify*
estimate	include	recall*	speculate
evaluate	indicate*	recommend	state*
examine*	influence	reconsider	study*
explain*	investigate	record	suggest
explore	judge*	reflect	tell*
fathom*	know*	register*	test*
feel	learn*	remember*	think
figure*	look at	report*	understand*
find	look into*	resolve	watch*
find out*	notice*	reveal*	wonder*
forecast	ponder	review	worry
foresee*	predict*	rule	

### 3.4 各動詞の選択制限別の分類

ここではコーパスから検出された各動詞が、どのような形式で出現しているのか検討していく。まず、各々の語が補部に関してどのような制限を持っているのか、主に *OALD*（一部『ランダムハウス英語辞典第2版』を参考）の語義記述に基づいて、補部節として間接疑問のみをとることができるタイプ（[\_[+WH]] verbs）、間接疑問とthat節のいずれもとることができるタイプ（[\_[(WH)]] verbs）、that節のみをとることができるタイプ（[\_[-(WH)]] verbs）、それ以外のタイプ（[\_[NP/PP]] verbs）のいずれかに分類してみた。そしてさらに、具体的な出現環境を把握するために、肯定文と否定文に分類した上で、定形と非定形に分類し、「単純現在形」、「単純過去形」、「法助動詞との共起」、「進行形」、「完了形」、「不定詞形」、「動名詞形」、「（進行形以外の）分詞」の8項目に下位分類し出現数を求めた。<sup>7</sup> 以下、その結果をタイプ別に見ていくことにする。

#### 3.4.1 [\_[+WH]] タイプの動詞

次の表は、補部節として間接疑問のみをとると記述されている動詞についての検索結果を示したものである。

## (8) [\_\_[+WH]] type verbs

	Affirmative									Negative									
	Finite					Non-finite				Finit					Non-finite				
	Present	Past	Modals	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerunds	Participles	Subtotal	Present	Past	Modal	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerund	Participle	Subtotal	Grand Total
wonder	153	82	24	40	23	72	12	43	449	0	0	2	0	0	0	0	0	2	451
ask	55	23	24	13	0	55	12	20	202	3	2	1	1	0	0	0	0	7	209
question	39	41	3	11	9	15	5	6	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	129
investigate	0	1	2	18	0	11	1	2	35	0	0	1	0	0	0	0	0	1	36
debate	0	8	2	4	0	1	3	0	18	0	0	0	0	0	0	0	5	5	23
enquire	1	9	2	0	0	2	2	2	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
discuss	2	4	2	4	0	1	1	0	14	0	1	0	2	0	0	0	0	3	17
ponder	1	3	1	2	0	2	0	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
choose	1	1	6	0	0	0	1	0	9	0	0	1	0	0	0	0	0	1	10
judge	0	0	1	0	0	6	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
study	0	0	1	3	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
query	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
reconsider	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
define	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
divulge	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
Total	252	172	70	95	32	168	38	78	905	4	3	6	3	1	0	0	5	22	927

全体的な特徴を述べることからまず始めよう。トークン数は927である。肯定文における使用数が905例であるのに対し、否定文での使用度数はわずか22例となっており、その比率は約41対1である。うち単純現在形〔肯定文〕(252例、27.1%)、単純過去形〔肯定文〕(172例、18.5%)、不定詞形〔肯定文〕(168例、18.1%)、進行形〔肯定文〕(95例、10.2%)、法助動詞を伴うもの〔肯定文〕(70例、7.5%)となっている。しかし、この結果の決め手となっているのは wonder と ask であることに注意すべきであろう。wonder の出現回数は出現数の約半分を占め、続いて、ask がその半分の出現回数を呈している(202例)。この2語のみで総数の3分の2以上が占められたことになり、それらが疑問節をとる代表的な動詞であることを数値的にも裏付けているといえる。

次に、どの出現形が好まれやすいかという点について、個別的な傾向の有無について考えてみたい。wonder については、肯定文の場合、最も多いのは単純現在時制で用いられている場合である。続いて多いのは単純過去時制と不定詞形での使用である。それ以外は特に際立った傾向が見られるわけではない。ask の場合、単純現在形と不定詞形での使用がそれぞれ55回となっている。特筆すべきは、完了形での使用が見られないことである。この点は wonder や question と大きく隔たっている。question に関しては単純時制での使用が比較的多い(80/129)という点を除けば、特別な使用傾向は無いようである。他方、investigate については単純現在形と完了形での使用例が皆無であり、その代わりに進行形での使用が18例となっており、出現総数では上位に位置している question の11例を上回っている。

## 3.4.2 [\_\_[±WH]] タイプの動詞

表(9)は補部として間接疑問節と that 名詞節のいずれもとることのできる動詞について集計した結果である。



## (9) [\_[±WH]] type verbs

Verbs	Affirmative									Negative									Grand Total
	Finite					Non-finite			Subtotal	Finit					Non-finite			Subtotal	
	Present	Past	Modals	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerunds	Participles		Present	Past	Modal	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerund	Participle		
determine	10	2	49	0	0	89	30	3	183	0	0	3	0	0	0	0	0	3	186
consider	2	8	38	14	4	73	16	5	160	2	0	1	0	1	0	0	0	4	164
say	1	0	8	0	0	84	2	2	97	1	4	30	2	4	9	0	0	50	147
know	11	3	14	0	1	37	8	0	74	26	18	11	0	1	2	2	5	65	139
doubt	84	34	4	1	1	8	0	0	128	0	0	0	0	0	0	0	0	0	128
discover	0	0	9	0	0	87	6	0	102	2	0	0	0	0	0	0	0	2	104
decide	21	10	21	5	0	6	10	9	82	2	0	4	0	7	0	0	0	13	95
check	1	1	11	0	0	52	3	0	68	0	2	0	1	0	0	0	0	3	71
establish	0	0	7	0	0	54	4	0	65	0	0	2	2	0	0	0	0	4	69
see	3	14	14	0	0	17	5	0	53	1	0	0	0	0	0	0	0	1	54
find out	1	0	6	0	0	30	5	2	44	0	0	2	0	1	0	0	0	3	47
tell	0	0	20	0	0	18	3	0	41	0	0	6	0	0	0	0	0	6	47
ascertain	0	0	1	0	0	30	3	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
indicate	3	0	9	0	1	7	2	3	25	0	2	3	0	1	0	0	0	6	31
show	3	0	13	0	1	11	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
care	2	0	0	1	0	3	1	0	7	15	5	0	0	0	0	0	0	20	27
reveal	1	0	14	0	0	8	1	0	24	1	0	0	0	0	0	0	0	1	25
confirm	0	0	4	0	0	11	0	0	15	0	0	3	0	0	0	0	0	3	18
speculate	2	5	2	0	0	4	0	0	13	0	0	3	1	0	0	0	0	4	17
worry	8	0	0	0	0	1	1	3	13	1	0	0	0	0	0	0	0	1	14
state	3	0	3	0	0	4	1	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
learn	1	1	1	0	1	1	4	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
explain	1	0	2	0	0	2	0	0	5	1	0	0	1	0	0	0	0	2	7
predict	0	0	1	0	0	2	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	3	6
gauge	0	0	0	0	0	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
recall	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	5
record	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	5
remember	1	0	1	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
dispute	2	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
specify	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	4
notice	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	3	4
guess	0	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
forget	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
announce	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
disclose	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3
resolve	0	0	1	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
calculate	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
reflect	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
feel	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
recommend	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
understand	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
forecast	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
advise	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
suggest	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
deduce	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
discern	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
foresee	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
realise	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
find	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Total	164	85	262	22	10	659	108	28	1330	61	34	80	7	15	11	2	5	215	1545



のべ出現語数は1545である。肯定文においては1330例、否定文においては215例となっている。結果、両者の出現回数の比率は約6対1となり、3.41節の結果と比較すると、否定文での使用比率の高さが明瞭に出ている。

中でも特に目立ったふるまいを示しているのが know (65), say(50)と care (20)である。興味深いことに、know については、139例中肯定文での使用が74例、否定形での使用が65例となっていることから、肯定・否定いずれのタイプでもほぼ同様に用いられるように思われるが、単純時制の部分のみを比較してみると、否定文での使用がはるかに優勢であることがわかる。say については法助動詞との共起(否定文)が目立って多い。この点については第4節で詳しく取り上げる予定である。

肯定文の場合、最も出現数の多いのが659例ある不定詞形(42.6%)であり、その他の部門は doubt, decide を除けば頻度上位にある動詞のかなりの部分がこの形式で生じているということがわかる。<sup>8</sup> 続いて、法助動詞を伴うもの(262例、16.9%)、単純現在形(164例、10.5%)、動名詞形(108例、7.0%)、単純過去形(86例、5.6%)の順に割合が低下している。他方、否定文の場合に関しては、出現総数215例は、実際には、ごく少数の動詞によって占められており、そういった動詞固有の特徴が読みとられる結果となっていると思われる。

次に、各部門において見受けられる特徴を追っていくことにしよう。まず、単純現在時制についてであるが、出現回数の多いものから列挙すると、doubt (84), decide (21), know (11), determine (10), worry (8)の順となる。特に doubt の場合、出現総数は128例であることから66%が単純現在形で現れているといえる。次に、単純過去時制の部分に目を向けてみることにしよう。出現回数の多い上位5語を挙げると、doubt (34), see (14), decide (10), consider (8), speculate (5)の順となっている。特徴的なのはこの類においても doubt の出現頻度が高いことである。前出の単純現在形での出現数とあわせると、この動詞の単純時制形での使用は92%を占めていることになる。

最後にdetermineとdecideに見られるコントラストを指摘しておきたい。COBUILD English Dictionary が determine に対し、'If you determine something, you decide it or settle it.' という定義文を与えているように、これら2つの動詞はよく似た語義を共有している。しかし、determine については、総数186例のうち、単純時制形(肯定文)での出現は、現在形・過去形まとめて12例(6.4%)しか見られない。それに比べ decide のほうは、102例のうち単純時制形(肯定文)が31例(30%)を占めている。そして、determine の場合、単純過去形での出現は2例を数えるのみであるが、法助動詞を伴った出現は49例(26%)もある。ここではその理由を見出す余裕はないが、これら2つの動詞が、意味的な類似性にもかかわらず出現する統語環境の面ではかなり違っていることだけは言えそうである。

### 3.4.2 [\_\_[-WH]] タイプの動詞

次に表(10)が示すのは、補部として間接疑問はとらず、that 節のみをとると考えられる動詞群に関する検索結果である。



## (10) [\_[WH]] verbs

Verbs	Affirmative									Negative									Grand Total
	Finite					Non-finite			Subtotal	Finit					Non-finite			Subtotal	
	Present	Past	Modals	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerunds	Participles		Present	Past	Modal	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerund	Participle		
argue	3	0	2	0	0	1	1	3	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
rule	0	0	3	0	0	6	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
hear	0	0	1	0	0	7	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
prove	0	0	3	0	0	4	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
deny	0	0	1	0	0	4	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6
think	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
agree	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
smell	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Total	3	0	11	0	0	27	1	3	45	0	0	2	0	0	0	0	0	2	47

見つかったのは9語であり、総出現回数は47例となっている。用例のほとんどは肯定文での使用となっている。不定形では不定詞形での使用が際立って多い。他方、定形では *argue* を除いて単純現在・過去形で用いられた事例は見られず、法助動詞を伴った出現が散見される。以下、気づいた点を述べていくことにしたい。

これらの動詞のうち、*think* については、思考作用の意味が強まって、*consider* や *imagine* の意味で用いられるときには間接疑問をとることができる。<sup>9</sup> (11) において *have to* とともに用いられていることから「考える」の意で使用していることがわかる。

(11) *think*

- a. “.... It's a big old bundle and another headache. I have to **think whether I need another headache.**”

He questioned why the timetable for a sale was so short ....

- b. “It makes you **think whether it is worth doing a good job and working hard,** when 50 per cent of your income is taxed ....”

*argue* は通常 *that* 節をとった場合、その節の中で述べられている命題を主張するという意味で用いられる。しかしここではそのような意味合いで用いられておらず、むしろ自動詞形の一般的な用法である「議論する」の意で用いられている。*whether* 節を導くはずの前置詞が省略され *argue* が *discuss* と似た他動詞としての機能を帯びているケースであると言えよう。

(12) *argue*

- a. Women are being denied help while researchers **argue whether pre-menstrual syndrome exists,** Dr Jane Ussher of University College London said.
- b. Doctors **argue whether patients without spleens should take penicillin every day for the rest of their lives or only during periods of illness such as sore throats or flu,** but the lifesaving potential of ...

なお、「*argue*+前置詞+*whether*節」の用例はコーパス中に比較的に多く見られる。

(13) *argue + PP + whether - clause*

- a. Computer analysts used to argue over whether the personal computer world would belong to IBM or Apple.
- b. Philosophers have argued about whether a dog can have a soul.

hear, smell は、「聞いて知る」、「嗅ぐことで判る」といった know や find out/tell が持つ意味で用いられている。このような場合に限って whether 節をとる可能性が生まれてくるようである。確かに、(13) の用例で listens to hear と言っていることから、単に聞くという行為のみに言及しているのではないことは明白である。

(14) *hear*

- a. Another London school, Archbishop Tennison, Lambeth, is yet to hear whether it may follow the same route.
- b. (Photograph) - A young dancer listens to hear whether she has been selected to perform with the Kirov Ballet at the Coliseum.

(15) *smell*

When he walks into an office, he can smell whether there are more men than women, whether they are young or old.

rule の出現が見られるのは、法助動詞を伴った場合と不定詞の場合のみである。(16a, b)を見てみよう。(16a)では、その手順が認可を受けている産科医院で使用可能かどうかを管理する」ことが予定として表されているだけであり、事実として述べられているのではない。また(16b)においても「競争を助長するために、BGは輸送管と貯蔵庫を売却せざるを得なくさせるべきかどうかを取り決める」ことが事実として語られているのではない。

(16) *rule*

- a. The authority is due to publish a response in the autumn when it will rule whether the procedure, once developed, can be used in licensed fertility clinics.
- b. McKinnon was about to call in the MMC to rule whether, to foster competition, BG should be forced to divest its pipeline and storage ...

(16) の用例が示唆しているのは、単独では whether 節をとりにくい動詞が、否定や法助動詞の助けを得ることで共起しやすくなる (cf. 稲田 (1983)) だけでなく、単独では that 節しかとらない動詞であっても、否定、法助動詞、非定形の形式をとることで、述部の内容の真偽を決定づけることなく open-ended な状態になっているならば、whether 節をとることが可能になるということである。事実、rule だけでなく、prove, agree についても同じことが言えそうである。<sup>10</sup>

(17) *prove*

- a. "The protection of life and property and the absence of crime will alone prove whether the objects for which the police have been appointed have been attained."
- b. Mr Yeltsin has now given Mr Rutskoi the chance to prove whether he is a serious political fighter.



(17) *agree*

- a. It is precise, sexy, comic and brilliantly characterised. Critics can't agree whether it is theatre or dance.
- b. It would then be up to the auditors to agree whether "the figure given for time taken to pay was accurate".

deny の場合、総ての用例で or deny の形で用いられている。or に先行する語は(14a, b)が示すように、deny の反意語となる語となっている。今回使用したコーパスでは confirm と corroborate しか現れていないので、実際にどのようなバリエーションが可能かについては、さらに大きなコーパスを使って検証するしかない。いずれにしても、この場合、deny が単独で whether 節を取るというのではない。というのも、簡単にいえば、deny の働きは命題内容を否定することであるので、補部として与えられた内容が疑問だと否定のしようがないからである。結局 confirm or deny の形式をとることで、whether 節が伝えている内容のいわばおもて面を confirm が、うら面を deny が受け持つように役割分担の手配がなされているのだろう。confirm 自体は補部として that 節と間接疑問のどちらもとることができるが、corroborate はどうも名詞節を補部としてとることはないようである。従って deny との組み合わせ形式で出現するしかない。

(18) *deny*

- a. "We said to Higgs and Hill that we would neither confirm nor deny whether we were to add to that holding."
- b. "But until there is evidence to corroborate or deny whether it was this particular bug which killed her, I won't really know what to think."

3.4.3 [\_\_+NP]タイプの動詞

本節では、通常、補部として間接疑問・that 名詞節のいずれもとらず、名詞句のみをとると考えられている動詞について検討していく。

(19) [\_\_+NP] verbs

	Affirmative									Negative									
	Finite					Non-finite				Finit					Non-finite				
Verbs	Present	Past	Modals	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerunds	Participles	Subtotal	Present	Past	Modal	Progressive	Perfect	Infinitive	Gerund	Participle	Subtotal	
assess	1	0	7	1	0	30	7	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46
test	1	0	2	0	0	19	0	1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
include	2	0	3	0	0	0	0	12	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
look at	0	2	4	2	0	1	1	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
explore	0	0	1	1	0	8	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
review	0	0	2	1	0	3	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
clarify	0	0	1	0	0	4	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
evaluate	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
detect	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
analyse	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
fathom	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

reassess	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
identify	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
distinguish	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
contest	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
dictate	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
disguise	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
influence	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Total	6	2	23	6	0	73	11	16	136	0	0	1	1	0	0	0	2	138

総出現数は138例となっており、これらの動詞のほうが[-WH]である3.4.2節の類に属する動詞よりも whether 節との共起度が高いといえる。分布の状況については、圧倒的に肯定文での出現が多く、不定詞形と法助動詞と共起した場合、分詞形がその殆どを占めている。

以下、各々の動詞の用例をいくつか挙げてみよう。

(20) *assess*

- a. "We assess whether there is any risk in that they have had invasive procedures carried out, and some of ...."
- b. Analysts could more profitably assess whether a company is adopting best practice within its sector, has introduced an environmental ....

(21) *test*

- a. The initial trials of a new drug only test whether a product is safe, rather than whether it works or not, but the company has said that all indications are that the drug will be
- b. Monday's final of the "Waiter of the Year" competition will test whether waiters really know all the aspects of serving food.

(22) *include*

- a. Matters to be discussed include whether there is a need for more leisure facilities and whether a ban on late-night carry-outs ....
- b. These include whether members' agents are responsible for negligence by managing agents and whether agents owe any extra-contractual duties to names.

(23) *look at*

- a. About 50 respondents looked at whether there should be an alternative report to the audit report.
- b. The MMC will look at whether such practices give rise to a complex monopoly situation.
- c. I have to look at whether my business life continues to be my way of life."

(25) *explore*

- a. We must also explore whether gender differences where girls outperform boys in exams are being exacerbated ....
- b. After that, he said, "we will explore whether there is a long-term future without the Shahs."

(26) *review*

- a. The authority should review whether it is necessary to test every child in every subject in the



same way ....

- b. In the wake of those results, Penta's steering committee and the MRC's board have reviewed whether the trial in children should continue.

(27) *clarify*

- a. "But when I got a letter back he asked if I could clarify whether we wanted him to propose or oppose the motion."
- b. During the hearing Mr Parry asked Det Chief Insp Mick Holland to clarify whether any warnings about the bombs had been given by the IRA.

(28) *distinguish*

... the Commission might adopt according to the seriousness of the infringement found without distinguishing whether or not the infringement had been brought to an end.

(29) *detect*

It is obviously in their interest to be assessed at regular intervals in order to detect whether there has been any change in their cognitive skills which may signify an ongoing ....

(30) *analyse*

- a. " .... We look at each case on its merits and analyse whether that person could buy without our help."
- b. Many of the computer systems used by financial advisers and insurance companies to analyse whether investors should transfer their pensions to another scheme are flawed.

(31) *evaluate*

- a. "... without the safety net of the government's purse, then the companies will have to evaluate whether the project is viable, calculating the risks of disruption."
- b. ... still wants to examine the impact of tightened United Nations sanctions. "Let us evaluate whether or not this might increase the pressure to the point where a negotiated solution might be ...."

(32) *fathom*

... appears to be little scientific methodology behind the valuation, so it is difficult to fathom whether Airtours' increased bid fairly and fully values Owners Abroad.

(33) *identify*

The bank has been experimenting with other methods of identifying whether cards are/being used by their rightful owners.

(34) *reassess*

He adds, however: "I think many companies are reassessing whether they should be making donations."

(35) *contest*

This evolves into an examination of tabloid ethics. Callers *contest* whether The Sun should have paid megabucks for the story.

(36) *dictate*

Wholly other considerations should *dictate* whether or not it was equitable to disapply a limitation Act defence than one's view as to ....

(37) *disguise*

"Profit can be quite deceptive, but the accounts can't *disguise* whether you've got cash or not."

(38) *influence*

The outcome of a special players' meeting on February 10 is likely to *influence* whether he leads a team of top professionals or a squad of juniors into vital international contests this year, ....

まとめると、include を除いて、これらの動詞は、意味的な類似性から次のように分類できるように思われる。なお、括弧内には同様の意味を持ち、間接疑問をとるとされている典型的な動詞を挙げておいた。

- (39) a. 事柄の内容に注意を向ける (watch) : look at  
b. 事柄の内容を調べる (examine) : test, review, analyse, explore  
c. 事柄の内容を議論する (discuss) : contest  
d. 事柄の内容を決定づける (decide) : assess, evaluate, reassess, dictate, influence  
e. 事柄の内容を理解する・認識する (understand) : fathom, identify, distinguish, detect  
f. 事柄の内容を示すまたは隠す (show) : clarify, disguise

ここで、(5) で述べた補部として間接疑問をとる述語の特徴を再度確認することにしよう。

(40) = (5) 補部として間接疑問をとる述語

- (i) 質問や疑問に関する述語  
(ii) 知識の有無、獲得、消失に関する述語  
(iii) 推測、判断決定に関する述語  
(iv) 情報の不確定性に関する述語  
(v) 情報の関連性、依存性に関する述語

(39a-f) の動詞はいずれも (40) の範囲内におさまる。換言すれば、それらは、意味論的には間接疑問を取る可能性を秘めているが、統語論的な情報として、そのような振る舞いが許可されていない、またはスイッチがオンになっていない、という奇妙な二重性を持っているといえる。言語の変化において、そのような gray area にある項目が類推による一般化の過程に引きずり込まれやすいことは想像に難くない。ここでも辞書の記述と実際の言語使用との差が生じているといえるのではないだろうか。

#### 4 動詞の意味とwhether節の補部性の可否

say, testify, ascertain, establish, find out などは単独では whether 節をとりにくいという指摘があること



は既に述べた。そして、コーパスの検索結果は、出現数という観点のみに限定するならば、testify の用例が見られない以外は、いずれの動詞も上位の頻度をもって出現していることを示している。従って本節では、検索ソフトによって得られた各動詞に関して、KWIC形式で表示されたコンコーダンスラインを参考にしながら、分布状況を再検討してしていくことにする。

#### 4.1 say

say whether～となっている用例は全部で97例ある。肯定文で最も多いのは不定詞であり84例を占めている。単純現在形が1例見られるが過去形は皆無である。

- (41) a. When you ring a finance company to arrange a loan, the company's agent asks you a series of questions, and at the end of the call says whether or not the loan is yours.

特に多いのは to 不定詞として生じている場合であり、decline to say whether ..., refuse to say whether..., be expected to say whether ..., want sb. to say whether..., ask sb. to say whether ..., be to say whether ..., It is adj. to say whether ...といった構文で頻繁に生じている。続いて多いのは法助動詞との共起である。特に否定的な文脈での使用が肯定文での使用よりも明らかに優勢である。

次に(42)に挙げたのはsay+whetherを含むKWIC出力の一部である。これを見ると法助動詞との共起、否定文での使用、そして、その2つの組み合わせの多さが窺える。

#### (42) say+whether

555175 | ty well but/nobody can say whether he would have been tack  
1572397 | ifestyle./> Nobody can say whether Mrs Kennedy Onassis's e  
3388954 | sed clinical trial/can say whether an intervention will be  
2287629 | responsibility. We can say whether someone is ill, but we  
3722717 | nticeship. But who can say whether Fowler made the goal th  
750146 | of recounting, who can/say whether either Johnson or Boswe  
2862158 | der review but I can't say whether this/incident will form  
376043 | s a recession. I can't say whether it will/become the deep  
3017622 | sday, 10pm) so I/can't say whether Greg Snow's adaptation  
1040349 | , 36, said:/^I cannot say whether there will be a repeat  
171383 | /bedrooms. They cannot say whether adultery is wrong or no  
1453139 | s." /> Nobody can ever say whether , if John Smith had opte  
1670501 | Item. They never ever say whether you are supposed to ent  
609436 | commended./>PC: Did he say whether there was anything wron  
1278029 | , HPI/will immediately say whether it holds any informatio  
185307 | cretary. She could not say whether the full signature/woul  
2396812 | red but they could not say whether/there was any terrorist  
598489 | ch, who is 21, did not say whether he would be going back  
2182751 | ing nation. He did not say whether Elizabeth/gets to keep

2412631 : tion Front. It did/not say whether he was in custody./>Mea  
 658773 : ‘/> Mr Mubarak did not say whether he had warned Sudan, Ir  
 624971 : he winner but does not say whether it involves a holiday,  
 284807 : o first base, will not say whether the six already know wh  
 2050015 : nk. CrossRail will not say whether it will change its/plan  
 778347 : investigators will not say whether/they contend that Mr Sa  
 3883107 : ./> Mr Askew would not say whether the sale was likely to  
 400500 : artment, but would not say whether he intended/to resign./  
 3922223 : n./> Camelot would not say whether the prize was won by an  
 2486867 : t Department would not say whether it would try to demolis  
 540207 : hough Dilkes would not say whether he would/be reporting t  
 303629 : rec./> Gritt would not say whether his comments had follow  
 662856 : r. The group would not say whether this will cause it to i  
 337515 : eforms” . He would not say whether he/would be staying at  
 2311464 : oe. Ladbroke/would not say whether a Stock Exchange announ  
 1105031 : can official would not/say whether the Americans were alre  
 664284 : im.” Police would not/say whether the same man is suspect  
 3479535 : on the race, would not say whether he thought Schumacher w  
 780345 : erence. They would not say whether Mr Hurd had/a fallback  
 54122 : give a precise date or say whether the meeting/related to  
 1558878 : sions./> Nor would she say whether she was a moderniser, a  
 448097 : that companies should say whether/they comply with a code  
 322253 : ondition to be able to/say whether or not he consented to  
 1641848 : We are simply asked to say whether a government's proposal  
 2587215 : ./> They were asked to say whether they felt certain state  
 2791540 : challenging Britain to say whether it will come in/or stay  
 2127437 : lso wants customers to say whether they strongly prefer/co  
 2522479 : d. He also declined to say whether he had received the/Pou  
 2988391 : , Mr Brown declined/to say whether the high earners would  
 1289574 : yment, but declined to say whether the sum was/linked to D  
 3944111 : Mr Clinton declined to say whether he/would link the pilot  
 113923 : Major Coke/declined to say whether he had confronted his s  
 2539236 : o comment, declined to say whether a leak/inquiry would be

#### 4. 2 ascertain

検出した用例のほとんどがto不定詞形で占められており、単純現在および単純過去の形式での使用



は見られない。To不定詞以外で見られるのは、法助動詞と共起したものが1例見られるだけで、あとはすべて動名詞形のみである。

(43) to+ascertain+whether

312086 : odolite to **ascertain whether**/you are making any forward pr  
483096 : cessary to **ascertain whether** there was an/intention, to be  
698921 : ask was to **ascertain whether** the/proceedings in their enti  
943897 : l court to/**ascertain whether** the importation of lottery ad  
1020749 : t/wants to **ascertain whether** Qantas's performance has impr  
1356292 : bodies to **ascertain whether** decisions to/enter into propo  
1559362 : sought to **ascertain whether** the cleaning operations of a  
1731163 : . Asked to **ascertain whether** a/particular B flat clarinet  
1860489 : orption to/**ascertain whether** they contain arsenic or any o  
2007850 : applied/to **ascertain whether** or not the defendant had been

(44) ascertaining+whether

1480346 : rpose of **ascertain whether** any rights have been transfe  
1480389 : rpose of **ascertain whether** any/rights have been transfe  
1881055 : ocess of **ascertain whether** a company is entitled to/be  
2249943 : /only to **ascertain whether** the tortious duty was so inc  
3957211 : r indeed **ascertain whether** there were/any profits or ga

#### 4.3 establish

この動詞についても、やはり、to不定詞の形で用いられているのが殆どである(54例)。肯定文における出現は、法助動詞との共起で6例が見られ、あとは動名詞形が4例となっている。否定文での使用は4例を数えるのみであり、圧倒的に少ない。to不定詞に先行している語は、次のKWIC出力の断片が示すように、try, tend, inquiry, failといったto不定詞をとる動詞及び名詞である。そして、そういった語はいずれも後続する動詞によって表される行為の達成を含意することはない。

(45) to+establish

63220 : trying to **establish whether** Madison Guaranty, an/Arkansas  
92653 : tended to **establish whether** any other clusters exist and t  
96390 : rmance to **establish whether** it improves./> The report will  
135863 : trying to/**establish whether** Capt Hearney had stayed in the  
166379 : nquiry to **establish whether** the deformities are linked to  
327546 : iske/will **establish whether** Whitewater might have been use  
452947 : ct him to **establish whether** I had got the house. There was  
454964 : failed to **establish whether** heroin substitutes/had been in  
481381 : ecords/to **establish whether** the incidence of defects is hi

554694 :ists must establish whether this February's wreck of the s

その他、動名詞形で前置詞の目的語となって使用されている事例が7例見つかった。過去時制での使用は見られなかった。完了時制をとって出現している例は3例見つかったが、いずれも否定辞notと共起しており、ここにおいてもコンコードスラインから whether 節の内容が unrealized であることを読みとることができる。

(46) established

2115310 :quiries have so far not established whether the/occupant

164384 :pril 18./> "I have not established whether it's a two-way

505609 :ations. We have not yet established whether the horse was

#### 4.4 find out

過去時制で用いられた用例は見られない。検出された用例の大部分はto不定詞のものであり、現在時制の形で用いられているのはOnly 34 minutes until you find out whether you have won Pounds ....のように副詞節の中に現れているのが1例と、次の(47)の文が見つかるのみである。

(47) After a brief homily from Graham, the counsellor talks to the "inquirer" and finds out whether they are first-timers, "backsliders" trying to rededicate themselves or believers reaffirming their faith.

### 5 結び

この小論では whether 節をとることのできる動詞について、その統語論的特徴および意味論的な特徴を辿ってきた。数量的な観点から当該動詞の分布状態を明らかにした上で、that 節よりも遙かにフレキシブルで名詞的特性の強い whether 節のふるまいを捉えようと試みてきた。

*The Times* and *The Sunday Times* のCD-ROM版を利用したコーパスは、現在では大きさの点からは十分とは言えないが、通例、目的語として名詞句しかとらない動詞が実際に whether 節を従えている例を収集するのに好都合であった。紙幅の都合で考察不足に陥っている箇所については、いずれ再検討をしなければならないと考えている。

---

<sup>1</sup> 例えば、江川(1991: 383)は、「[whether節が] 動詞の目的語になる場合も、その動詞は何らかの意味で「疑問」を前提とする語に限られる」と述べている。

<sup>2</sup> 以下、特に明記しない限り、提示する用例は今回使用したコーパスから採取したものである。

<sup>3</sup> 当然のことながら、(2a, b)には意味の違いがみられる。話し手が真とも偽とも想定しないような状況は「中立」的(cf. Leech and Svartvik, 1994: § 279)であり、(2a)では'首相はすでに賛成していることを念頭においた上で質問を発しているのに対し、(2b)における話者は中立的な立場にあり、真偽を確認するための情報を求めていると解される。

<sup>4</sup> 例えば、動詞testに関して、OEDにはこの動詞が節を目的語として従えている文は1例も挙げられて



いないにも拘わらず、他の語義説明の部分で *whether* 節とともに使用されている例が見られる。

*Precipitin test*, a means of establishing the identity of a substance by testing wher ot reacts with a particular percipintin; *hrecipitin testing* vbl. n.

また、用例の全文検索を試みた結果、採取されているのはわずか1例しかない。

1968 *Times* 24 Oct. 7/8 To test whether any of this matter was resistant to breakdown, he incubated concentrated of the water samples.

<sup>5</sup> データの抽出に関しては、*find out*, *look at*等を除き、動詞の後に直接*whether*節が後続しているものだけを抽出した。

<sup>6</sup> 以下の動詞は、稲田(1983)では疑問節をとるとされているが、使用したコーパスにおいて用例は発見されなかった。

acknowledge, admit, communicate, comprehend, compute, conceal, confess, confide, contemplate, convey, demonstrate, display, emphasize, enter, examine, exhibit, express, find out, forecast, foretell, gather, grasp, imagine, infer, insinuate, look into, measure, mention, mind, misunderstand, observe, ordain, outline, overhear, perceive, plan, plot, point out, prescribe, proclaim, promise, publish, reckon, relate, relay, release, repeat, sense, settle, signify, stipulate, stress, surmise, suspect, teach, telephone, testify, uncover, verify, volunteer, vote

<sup>7</sup> ここでは *be able to* と *have to* は法助動詞に含めて計数を行った。また、命令文での使用は全体を通してごく僅かしか見られないので便宜上除外しておくことにする。

<sup>8</sup> 本研究では便宜上端折った部分であるが、動名詞形との比較といった細部にわたる事項を検討するためには、不定詞形を統語的な基準に従って更なる下位区分へと分類する必要があるだろう。

<sup>9</sup> 山本(1982: 25)を参照。

<sup>10</sup> *agree*の語彙的な非定形である *disagree* は *agree* とは異なり、*that* 節はとらず、辞書類において自動詞としてのみ記述されているようであるが、次の用例が示すように、*whether* 節であれば、目的語の位置に生じることが可能になるようである。

... are agreed that it would transform security and politics in the province but they disagree whether rounding up terrorist suspects would change things for better or worse.

## 参考文献

Declerck, Renaat (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.

Greenbaum, Sidney, Gerald Nelson, and Michael Weitzman (1996) "Complement Clauses in English." In Thomas, Jenny and Mick Short (1996) *Using Corpora for Language Research*. London and New York: Longman.

稲田俊明 (1993)『補文の構造』大修館書店。

梶田優 (1976)『変形文法理論の軌跡』大修館書店。

小西友七 [編] (1981)『英語基本動詞辞典』研究社出版。

- Kennedy, Graeme (1998) *An Introduction to Corpus Linguistics*. London: Longman.
- Leech, Geoffrey, and Jan Svartvik (1994<sup>2</sup>) *A Communicative Grammar of English*. London: Longman. 池上恵子 [訳] 『現代英語文法 コミュニケーション編』 紀伊國屋書店。
- Minugh, David (1997) “All the Language that's fit to Print: Using British and American Newspaper CD-ROMs as Corpora” In Wichman, Anne, Steven Fligelstone, Tony McEnery, Gerry Knowles (eds.) (1997) *Teaching and Language Corpora*. London and New York: Longman.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London and New York: Longman.
- 齋藤俊雄・中村純作・赤野一郎(1998)『英語コーパス言語学』研究社。
- 山本和之(1982)「補文に間接疑問をとれない述語一知っていることを伏せられない場合」『山口大学文学会誌』33, pp. 17-31.

## 参考辞書

- Collins COBUILD English Dictionary*, 2nd edition. CD-ROM. HarperCollins Publisher's. (1995)
- Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 5th edition. CD-ROM. Oxford University Press. (1995)
- The Oxford English Dictionary*, 2nd edition. CD-ROM. Oxford University Press. (1992)
- 『ランダムハウス英語辞典』CD-ROM. 小学館. (1998)